

# 初動対応、住民ら確認

## 横手市 冬季防災検証訓練

### 情報入手にスマホ活用



担架を使ってけが人を避難所に搬送する消防団員ら

積雪寒冷期の地震発生に備えた横手市の冬季防災検証訓練が22日、市中心部で行われた。災害発生直後の初動対応をテーマに住民主体の安否確認や地元消防団による救助活動を実施。スマートフォンを活用した情報受信や避難誘導の訓練も行い、有効性や課題を検証した。

訓練は午前9時半、マグニタとの想定で実施。積雪や道  
チユード8・1の横手盆地・路寸断で救助隊の到着や活動  
真昼山地連動型地震が発生し  
が思うように進まないことを

念頭に、関係者らが初動対応の在り方を確認した。  
西前郷町内会と山崎町内会  
が住民の安否確認を行い、避難所の横手高校定時制課程青雲館（同市前郷二番町）まで自主避難したほか、消防団が担架を使ってけが人の救助活動を行った。

NTTドコモ秋田支店と連携し、災害情報共有システム（Lアラート）で発信された避難勧告や避難所開設情報をスマートフォンで受信する全国初の実証試験も実施。住民らはスマートフォンで得た情報や避難路を手掛かりに青雲館まで避難した。活動の様子はスマートフォンで撮影し、青雲館体育館にリアルタイムで映像が伝送された。

訓練終了後、西前郷町内会の佐藤友治さん（65）は「好天で順調だったが、本来の厳冬期なら猛吹雪や倒壊家屋で道がふさがれるなどとして苦労すると思う。貴重な経験を次に生かしたい」と話した。

参加者からはけが人搬送にスノーダンプを使うことや、暖房不足を補うため住民自ら毛布を持って避難する必要性を指摘する意見もあった。

市の冬季防災訓練は昨年、増田町狙半内地区で実施したのに続き2回目。市は結果を踏まえ来年度以降、冬季防災計画を策定する方針。

（荒川康一）